

明治大学現代マンガ図書館 所蔵マンガ本 目録データ作成・配架準備事業

体名 学校法人 明治大学

概要／課題

当館は、設立者の故・内記稔夫氏が50年以上にわたり収集したマンガ本約27万冊を保有。平成21（2009）年に寄贈を受けた時点では、目録は紙の台帳で、検索・閲覧は来館者に限られていた。平成23（2011）年、目録のデータ化作業に着手。平成27（2015）年からメディア芸術（<https://mediaarts-db.artmuseums.go.jp/>）アーカイブ推進支援事業の支援も受け、令和3（2021）年に成果物である目録データ19万件をインターネットで公開（<https://s-opac.net/Opac/search.htm?s=5YS1vzZKPBLCww2TA9pmYx067ib>）。検索および全国から利用可能な郵送複写の提供を開始した。また、既存配架済資料からのデータ作成を完了し、令和4-5（2022-23）年度は、未配架資料の単行本を整理。本年度は、残る雑誌の目録データ作成と配架、参考資料の配架・準備を行った。

体制／手法

- ・ 目録データ作成・配架準備作業は業務委託によるが、図書館内で実施することにより、対象となる資料について、協議しながらの推進を可能とした。
- ・ 限られたスペースであり、以下の作業を複数回に分けて実施
 - ・ 書架による資料種別分類の実施
 - ・ 既所蔵本との照合（複本の判定）切り分け、収納
 - ・ 目録データの作成
 - ・ 資料ID（バーコードラベル）の貼付
 - ・ 箱番号の採番、収納

成果

雑誌資料は、作業対象が：8,832冊。

- ・ 目録データを作成し、出納できるよう配架したもの：7,590冊
- ・ 複本として判定されたもの：1,242冊

参考資料の資料種別分類

※計画していた参考資料の書誌データ作成は、同人誌のような ISBN のない資料や、日本語以外の資料など、当館としての「収書・整備方針の再整理」が必要と思われるものであったため、本年度作業では、書誌データ作成の対象外とし、資料種別調査にとどめることになった。

参考図書（CBK）	65箱	
ムック（MOOK）	43箱	
同人誌（DZ）	19箱	
貴重書（別途調査が必要）	2箱	
豪華本等	10箱	
付録（MBF）	6箱	
日本語以外の資料（INT）	18箱	
その他パンフレット等	7箱	（合計170箱）

【文化的・社会的効果】

日本のマンガ文化は大きな転換期にある。「雑誌での作家育成→単行本での作品化」という流れに加え、インターネットを使った様々な試みが行われるようになった。その中であって現代マンガ図書館の蔵書は、雑誌と単行本、その評論といった「書籍」を通して積み上げられてきた日本のマンガ文化の歴史と現在の全体像を反映する「書籍コレクション」である。アーカイブのデジタルデータ化が進み、ネット検索・閲覧・複写（著作権法第31条による）を可能とし、国内外のマンガ研究に貢献している。明治大学には、14万冊の蔵書をもつ米沢嘉博記念図書館が併設されており、目録データの整備により、両館資料のすり合わせ、複本の判定、抜け巻の補完を行うことが可能となった。今後、両コレクションの統合に向けて、より利便性の高いアーカイブの実現を目指す。